

# 藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

## ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長  
市川市長 村越 祐民

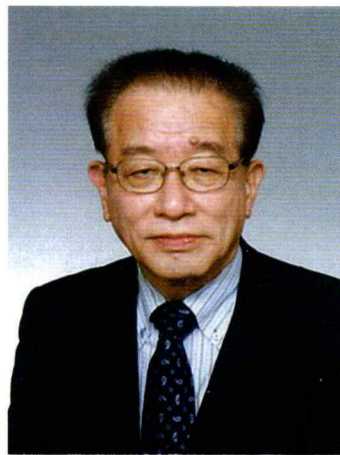


市川市芸術文化団体協議会の能村会長をはじめ会員の皆様におかれましては、長きにわたり本市の芸術文化の普及ならびに発展に多大なるご尽力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

また、本協議会が、多くの市民や団体の芸術文化活動に励むことができる場や市民が身近に本市の歴史や多様な芸術文化に触れる機会の創出に努めておられますことに対し敬意を表します。

毎年秋に、市川市八幡市民会館(全日警ホール)にて開催しております「芸術文化集会」は、昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。今年度の開催も危ぶまれましたが、会員の皆様によって入念な感染症予防対策を講じていただくことにより、無事に開催することができました。ご来場された

方々が安心して楽しむことのできる芸術文化集会となりましたことに、あらためて、深く感謝申し上げます。多くの芸術文化活動は未だ自粛や縮小を余儀なくされている状況でありますが、芸術文化集会を無事開催できましたことは大きな一歩となり、今後また多くの市民の皆様が憂いなく芸術文化に親しむ豊かな日々となるよう微力を尽くす所存です。



## 市川の文化力

市川市芸術文化団体協議会  
会長 能村 研三

コロナ禍による緊急事態宣言下の中、九月十四日から第二十八芸術文化集会が開催された。展示部門については感染対策を十分に施した上で多くの方々にご来場いただきご覧いただいた。十九日の講演会、シンポジウム、舞台公演については無観客となり、後日のオンライン配信を待つこととなった。新型コロナウイルスの感染拡大は、私たち文化芸術に携わるものにとって

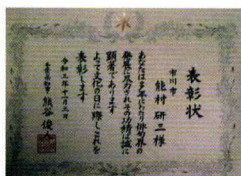
も大きな打撃を与えた。市内の文化施設が休業を余儀なくされ、イベント、公演、展示などが中止・延期に追い込まれた。それに日常の練習活動も多く制限されその期限も長期化したことは大きな痛手となった。しかし、今回の文化集会の開催をきっかけに、市川の文化力といったものがこうした困難を克服し市民の中に根強く残っていることを確信した。

これを機に、ウィズコロナ、アフターコロナの時代を生き抜くためにも、改めてこれまでの暮しや日常を振り返り、文化や芸術に接することへの期待とあこがれを認識しながら、その果たす役割は大きいと思われる。

来年二月には第五回目となる「天空の文化祭」を計画している。これは私たちの活動を市民にアピールに絶好の機会になればと思っている。

## 能村会長「令和三年文化の日千葉県功労者表彰」を受けました

芸文協能村会長が、十一月三日、熊谷千葉県知事より文化功労で「令和3年文化の日千葉県功労者表彰」を頂きました。この名誉ある表彰を頂きましたことを芸文協として大変嬉しく思っております。





第28回文化集會が、  
令和三年九月十四〜十九日まで  
全日警ホールで開催しました。

## 文化集會特集です

文化集會の流れを考える

市川芸術文化団体協議会 副会長 酒井 玄枝

1994年(平成6年)2月第1回文化集會が開催されました。平素は活動も発表の場も異なる各団体がテーマに沿って一体となり、研鑽と親睦を深めながら地域の芸術文化向上に貢献することを目的に今日まで継続されています。コロナ禍の今年、第28回文化集會が、9月14日〜19日開催となりました。

コロナのパンデミックにより様々な活動が制限され、芸文協の活動もこの一年半余りは休眠状態でした。各加盟団体もそれぞれ試行錯誤のなか、団体を維持し会員のモチベーションを保つためには様々な苦勞があったのではと思っています。今回の第28回芸術文化集會は、「実(みのり)」―歌会始のお題より―をテーマとし、全団体参加とはならず残念ではありましたが、素晴らしい展示作品の数々は芸文協ならではのものです。19日最終日は、ホールでの公演です。基調講演・シンポジウム・団体の発表と盛りだくさんとなりました。発表公演は3団体でしたが、それぞれ充実した素晴らしいステージでした。米田耕司先生の基調講演に引き続き、久しぶりのシンポジウム「更なる実りに向かって」としパネラーの皆様と共に意見交換し貴重な時間となりました。無観客での公演は少し残念でしたが、会員各自が文化集會を通して現況を確認し、これからの芸文協活動の在り方など再構築のきっかけになる事を願っています。

開催内容のビデオ撮影をし、ユーチューブにアップしました。市川市のホームページともリンクさせ、多くの方に視聴して頂く取り組みにもトライ致しました。

★文化集會のYouTubeページへの二次元バーコードです。  
スマホのQRコードで読み取りご覧ください。



### 目で見える文化集會 基調講演

講師 米田 耕司 氏

テーマ「美術館の現在とこれから」

「その実りを求めて」

【自己紹介】一九七一年に千葉県立美術館設置準備学芸員として赴任し、以後一貫して美術館と文化振興の仕事に携わる。県内先進の市川市と連携して芸術文化の仕事をしてきた。千葉県立美術館長、長崎県美術館館長を勤めた。

#### 【美術館の現在】

美術館数九七四館(二〇二〇年三月現在、文科省、国立九、公立四五八、私立四八六、大学二一)登録博物館三八七、相当施設一〇五、その他四八二。その内全国美術館会議(全美)加盟館三九四館(二〇二〇年六月)。全美は、かつて私立美術館中心だったが、現在、国立十、都道府県六十九、私立一三三の日本の美術館の連合で、六つの専門研究部会(保存・教育普及・情報資料・小規模館・美術館運営制度・地域美術)が、活発に活動し連携する美術館の全国組織。私は理事・副会長と教育普及研究部会長として美術館の直面する諸問題解決のため活動してきた。

#### 【ミュージアムの力・使命】

人生八十年時代と言われてきたが、今や百年時代。二十〜六十歳の青年の生涯労働時間は十時間、一方六十〜八十歳の青年の自由時間は十時間二千時間。生涯学習・芸術文化が楽しめる時代と生きて行かない時代になった。美術館は、かつては社会教育施設↓生涯学習↓と言われた。今や高度の福祉施設としての意味を併せ持つようになった。

【A、東大の三上先生先生の戦後焼け野原での美術体験(生きる力を得た話)】

昭和二十一年春に上野の闇市に食料を求めて行った三上先生は、上野の国立博物館で開催の古美術の展覧会に続々と詰めかける行列について行き「私は戦慄に似た気持ちに耐えながら、優れた日本の伝統美術の前で立ち尽くした。(美術が)これほどの心の糧となり、救いとなる」と信じたことであった。(この展覧会を見て)生の戦列に復帰した人は多かつたであろう。(東大新聞に回顧)

【B、大原美術館の絵をみて感動して自殺を止めて(生きる力を得た青年の話)】

【これからの美術館の話】  
美術館の初期・第一世代は「保存志向」、現在の第二世代は「公開展示」、そしてこれからは第三世代「市民の参加・体験」実現。

【まとめ・(文化国家の実現・4つ汗をかく努力)】

果報は練つて待たれる。寝ていては実現できない。4つの汗とは「1、相互理解 2、市や国の風格を上げる 3、事業の創出 4、観光と交流」である。美術館は地域振興と文化芸術を結びつける力があり、市川市には実現する力が蓄積している。

### 目で見える文化集會シンポジウム

テーマ「芸術の実りに向けて」

司会・酒井玄枝(市川市芸術文化団体協議会副会長)

パネラー

能村研三(市川芸術文化団体協議会会長)

小坂裕子(市川市文化振興財団常務理事)

篠田要衛(市川交響楽団協会副理事長)

伊東美佐子(宗左近・蕊の会事務局長)

助言・米田耕司(本日の講演者)

#### コロナ禍でのそれぞれの活動

酒井 文化活動は本来、人と人が集まり、一つの空間のなかで一緒にディスカッションをしながら高めていくものですが、新型コロナウイルスのパンデミックによって、多くの活動が休眠を余儀なくされたり、手足をもち取られたようなこの一年半でした。この間の各団体の活動についてお聞かせください。

能村 私は市川市俳句協会が活動をしていきます。通常活動はできていませんが、幸い俳句は紙媒体が中心ですから、月刊の会誌や句会ごとの冊子等を配布することで、ある程度は凌いでいます。

ただ、俳句は芭蕉の時代から連衆として、人が集まって句についての話し合いを評価し合いながら、新しい気づきを得てきました。密になるため、その機会が持てませんが、オンライン句会などで補ってはいませんが、画面を通してでは場の空気が感じられないものか少しあります。

小坂 緊急事態宣言下でしたが、文化庁の基準や市からの通達を守りながら、なんとか新人音楽家コンクールを開催し、保育園などからの依頼によって若い演奏家を派遣したり、市内のギャラリーやホー



ルで人数を制限しながら演奏会を開いてきました。若い演奏家たちは演奏する機会があることを喜んでいますが、ゼロ歳から高齢の方まで、コロナ禍の暮らしとは別の実りのある時間を生み出してきたと思います。

また、中高生の作品のコンクールや演奏会や絵画展のサポーターを要請する事業も続けています。それでも、中止にせざる得ないこともありました。いろいろな状況、いろいろな時代でも、人は実りを求めます。自分ができるものを探し求め、共感を得ていくことで、次の実りに向かっていけるのではないかと思います。

**篠田** 私たち市川交響楽団協会は、故村上正治先生が昭和26年に創設し、現在市内の六つの団体によって構成されています。約二五〇名の会員が年間八回ほど演奏会を行っておりですが、この二年ほどは練習会場の獲得、練習への参加の制約などで、思うような活動は出来ていません。

**伊東** 私達は、市川に長く暮らしていた宗左近という詩人と、宗に関わった人をフューチャーしたり、宗の作品や活動について情報発信をしています。宗と関わりの深かった北九州市や宮城県に加美町（旧中新田町）とも交流をしてきましたが、コロナ禍の中では互いに訪ねることもできなくなりました。**酒井** それぞれの団体が、試行錯誤をしながら活動されてきたことがわかりましたが、文化活動における「実り」についてはどう考えていますか。

**能村** 米田先生の講演に、ピッチャーとキャッチャーの話がありました。我々は文化を発信していくピッチャーですが、それを受け止めるキャッチャーがいなければ文化活動は成り立ちません。

その意味で、独りよがりにならず、みなに発信して受け止めてもらうことで実りが生まれるのではないかと。

このシンポジウムはYouTubeによって、市川市民だけでなく全世界に発信しています。こうしたテクノロジによって、新しい可能性が広がることもあるので、良好なキャッチボールができる環境を作らなければいけません。

**篠田** 実りという普通は、成果、頂点達成といった言葉で表現されるように、一つの到達点を意味します。しかし、芸術文化に頂点が果たして存在するのかという疑問があります。

私はアマチュアの音楽家ですが、普段の活動の成果を公演会や展示会などで発表し、そこに向けた日々の精進や努力をしています。その上で、演奏の出来栄だけでなく、プログラム構成やお客様の入り、演奏会全体の質の評価が実りの対象となると思います。

ただ、最も気をつけなければいけないのは自己満足です。自分の技量や演奏曲目への解釈などに対して、最大限の努力を重ねることで、様々なレベルで実りとして評価される。それが芸術文化の一つの実りと考えていいのではないかと思います。

**米田** 芸術活動では、最初は先生を目指して勉強しますが、どこかで必ず自分の葛藤や苦渋を経験することになる。しかも、先人の道をたどって到達したと思っても、必ずその先がある。芸術文化活動に到達点はない。ただ、いい作品を作れば必ずそれを学ぶ人が出てきます。文化活動にとつては、それを学び、継ぐ人が出てくるのが実りではないかと思えます。

**酒井** すぐに何かの結論が出るのではなく、少しずつ精進しながら前進していく

た先に実りのようなものが見えるという事ですね。

### コロナ後の新たな実りに

**能村** これからの活動では、今まで集積してきたことをバネに、何んらかの「新しさ」を見つけていかなければなりません。

例えば、他の団体の活動に触発されることで、次の新しい作品ができていくはずですが、私は他の県や市町村の文化芸術団体とも交流し、幅を広げていく。それを通して、各々が文化の質をあげていく新しさを見出していくことが必要ではないかと思えます。

**小坂** 自己満足になっていけないという話がありましたが、私は、生涯学習の基本は自分が楽しいと感じることだと思えます。コロナ禍によって私達は、生きていることの素晴らしさや困難さを感じました。文化や芸術に関わることによって心の健康を取り戻したり、楽しさを感じたりできるような活動を続けていきたいと思えます。

いまの時期は、もしかしたらバネが縮まって力を溜めているように、いろいろな気持ちを蓄えている時期なのかもしれません。大きな実りになる日が来ることを楽しみにしています。

**伊東** 私達の活動は、宗左近という実りを、どうやって知っていたかかという種蒔きの方に中心があると思えます。そのためには、SNS、YouTubeやインスタグラム、フェイスブックといった新しい媒体による発信方法を学び、活用することで間口が広がっていく。地味な活動ですが、続けていくことが重要だと思っています。

**米田** 市川市にはたくさん文化芸術

の関係者が住み、活動している文化的な都市です。私はいろいろな地域を見てきましたが、これほどの基礎土壌がある街は珍しい。私は、いまの日本の芸術文化活動に足りないのは、他の分野とのコラボレーションだと考えています。市川にはそれができる可能性がたくさんある。お話を伺って、市川はローカルでありながらインターナショナルであるという気概を持てる地域だと確信しました。

**酒井** 芸文協は、それぞれの団体がそれぞれ自立して活動をし、一年に一度、文化集会所して他の団体と交流をしながらお互いを高め合う活動をしてきました。

新型コロナはが終息しても、以前と同じような生活環境にはならないかもしれません。しかし、この間に体験したことが必ず次の文化活動とその実りにつながっていくと確信しております。





市川市・市川市芸術文化団体協議会 主催  
第28回芸術文化集会 2021.9.14～19 全日警ホール

シンポジウム  
テーマ「芸術文化の実りに向けて」  
パネラー  
八木村三郎氏(市川市芸術文化団体協議会会長)  
小坂裕子氏(市川市芸術文化団体協議会理事)  
後田孝典氏(市川市芸術文化団体協議会理事)  
伊東美佐子氏(宗左近・蕊の会副会長)  
進行  
酒井玄枝氏(市川市芸術文化団体協議会副会長)

主催：市川市 市川市芸術文化団体協議会  
第28回 芸術文化集会  
テーマ「実り」



<基調講演> 講師 米田耕司氏  
テーマ「美術館の現状とこれから」・「復興の現状」



## 展示の部

九月一四〜一九日、二階第2展示室、ギャラリー他にて各団体が以下の内容で展示を行いました。

### ○市川市花道協会

この秋に出会う「小さな秋」はどんな姿形なのか・・・ワクワクします。どうぞご覧ください。今年も市川市俳句協会とのコラボを致しました。

○市川市手工芸連盟は、市内在住の手工芸愛好家の集まりです。会員の作品をコンパクトにまとめて展示しました。

### ○市川市俳句協会

市川市俳句協会の役員は、市川市で活動している一〇の俳句結社の主宰・代表・同人によって構成されています。本集会のテーマ「実り」を組み込んだ役員の自筆俳句短冊を展示しました。

### ○輪の輪工芸美術会

工芸は用の美をテーマにした皿、碗、香炉、盆栽鉢等の陶芸作品と人形。絵画は自然を題材にした大型作品、世界風景の中の二人、花、静物をテーマとした中小作品を展示しました。

### ○宗左近・蕊の会

宗左近のコレクションの多くを撮影した市川在住の写真家・名鏡勝朗氏の作品を紹介しました。一昨年鬼籍に入られた氏の実直な視線と宗左近の眼差し「実り」が伝われば幸いです。

○和心会〜紫翠庵  
実る秋は口福の季です。里の幸を形にした干菓子に、一服の薄茶のおもてなしを今回はできませんでしたが、展示発表は閑寂な趣の中、「実り」を感じる趣向でした。

市川市・市川市芸術文化団体協議会 主催  
第28回芸術文化集会 2021.9.14～19 全日警ホール

展示の部②

○輪の輪工芸美術会

○宗左近・蕊の会

○和心会〜紫翠庵

市川市・市川市芸術文化団体協議会 主催  
第28回芸術文化集会 2021.9.14～19 全日警ホール

展示の部①

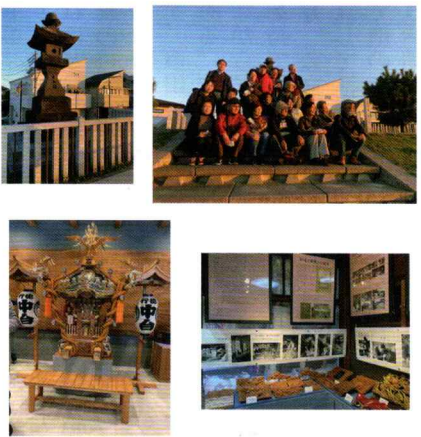
○市川市手工芸連盟

○市川市俳句協会

○市川市花道協会 (後ろの短冊は市川市俳句協会とコラボです)

## 行徳 歴史と文化の散策

令和三年度は、市川市のバスが借りられなくなったため、バス研修に変えて徒歩による研修を試みました。11月25日(木)午後一時〜四時三十分、参加者21名でした。コースは次の通りです。東西線妙典駅出発→成田道(江戸時代の成田山参詣ルート)→寺町通り→徳願寺(境内見学)→神明(豊受)神社(五ヶ町大神輿を見学)→権現道(家康が鷹狩りに際して利用したとされる古道を歩く)→妙覚寺(キリシタン灯籠)→法善寺(芭蕉の句碑、巨石の庭を見学)→神輿ミュージアム・中台神輿店(神輿の製作現場を見学)→八幡神社(富士塚、イチヨウの巨木)→行徳旧家(田中邸、加藤邸、笹屋うどん跡)→行徳ふれあい伝承館(旧浅子神輿店)→常夜灯公園(旧江戸川を見渡せる公園)→素晴らしい夕日の中で記念撮影→解散。歩いてこそ発見することがたくさんあり、大変有意義な散策研修となりました。一部の人は行徳駅前の居酒屋で楽しい反省会を行い、今後の新たな展開を予測させる話で盛り上がりました。乞うご期待です。  
(散策責任者：市川市合唱連盟・酒井玄枝、(総合案内・輪の輪工芸美術会・田草川信慈、(現地ガイド・宗左近・蕊の会・峰崎成規)





## 第28回文化集會公演部門参加

### 市川オペラ振興会

コロナで、昨年は開催出来なかつた公演、今年もコロナの中ではありましたが、何とか開催出来た市川市芸術文化団体協議会の舞台公演。コロナの状況が変化する中、YouTube配信となり、また別の世界が、やってまいりました。

歌手の私たちは、また別の緊張感が増える中、本番が行われました。また、お客さまからの温かい拍手にも支えられ、無事公演終了となりました。この内容は、市川市からも、配信されるようです。

市川オペラ振興会では、やはり、昨年は公演を開催出来ず、今年5月に何とか開催する事ができましたことは、幸いでございました。

さて、市川オペラ振興会では、2022年11月13日(日)には、市川市文化会館大ホールで、オペラ公演を、お届けさせていただきます。

どうぞ、新しい市川市文化会館に、いらしてくだされいます。



## 第28回文化集會公演部門参加

### 市川民話の会

コロナが猛威をふるっていった9月の文化集會では、市川市八幡市民会館(全日警ホール)で観客を入れずに、市川に伝わる疫病退散の話の中から、国分に伝わる「腹切りさま」と国府台に伝わる「辻切り」、そして市川の文化の源ともいえる「真間の手児奈」を紹介しました。

緊急事態宣言が解除され、抜けるような青い空、まだまだ風に温もりが感じられる10月23日土曜日の午後、第44回市川民話のつどいVが、開催されました。44回目の開催を迎えて、多くの市民に親しまれて頂いた事に感謝の想いしかありません。

市川民話の会では、今年度の市民文化祭に合わせて、主に北方・中山周辺の話をまとめた『市川の伝承民話第9集』を発行しました。今回はその中のお話として、コロナ禍のご時世、厄除けや疫病退散の話も交えたものを、11人の演者によって語りました。

「じゅえむ話し」では、お馴染みの頓智の効いた話として、いつも人を喰った様な事ばかりのじゅえむどんが、逆に凹まされる話として「第9集」からは、曼荼羅図を掲げて練歩くという民俗的な風習の「北方の七面堂」や、河童譚の少ない市川に残る「かつばと大柏川」、生活に密着した「肥やし船」など、そして咳を鎮めてくれる「腹切りさま」や疫病退散の願いを込めた「お経塚とコレラ」や「辻切り」など時宜を得た語りの内容でした。

今は、百年に一度と言われる新型コロナ流行の真つ只中。多くの犠牲者を出し、今だ出口が見えない状態ですが、いつの日かこれも民話として語られるようになるのでしょうか。



## 第28回文化集會公演部門参加

### 市川市芸能協会

私たちが市川市芸能協会は、芸文集會に毎回参加をさせて頂いていますが、今年には特にコロナ禍を力強い和太鼓で追い払う気持ちを込めて「八幡下町ゆうづる太鼓」が演奏させて頂きました。新型コロナウイルス感染拡大対策として無観客での演奏でしたが、芸文協の方たちが多く客席に来て頂き、あたたかい拍手を頂きとても楽しいひと時を感じることができました。

市川市芸能協会は、芸能の推進に力を入れる各団体が協力し、広く市民を対象として、地域の芸能の振興、伝承に関する事業を行い、芸能を通して、市民の福祉の増進、地域の活性化に寄与することを目的として設立しました。毎年地域に密着したイベントとして、地域自治会の方たちと協力をしながら「八幡芸能祭」(今年10月24日)を開催しています。また、地域の活動やイベントにも積極的に参加、協力しながら研鑽を積んでいます。

加入団体は、「市川カラオケ連合会」、「お雛子の「八幡雛子保存会」、和太鼓の「八幡下町ゆうづる太鼓」、日本舞踊の「華実会」、新舞踊の「八幡下町踊り同好会」、創作日舞の「千翠会」、かつばの「光江流かつばれ市川道場」、銭太鼓の「はなみずき会」、歌謡舞踊の「花秀会」です。

これからも、お互いの芸の良さを認め合い、研鑽を積み、共に進んでいけるように頑張つてまいります。



## 賛助会員を募集しています！

### 個人賛助年会費 1口 2000円 (何口でも可)

市川市芸術文化団体協議会(通称:芸文協)は、昭和49年に、「文化都市いちかわ」の芸術文化振興の中核を担うべく、設立されました。以来市川市の文化芸術の原動力となり、市民の皆様と共に文化振興の一役を担って参りました。

加盟団体間の連携、情報共有をはじめ、芸術文化の振興のための事業を行っています。「文化集會」「天空の文化祭」を開催するとともに、加盟団体同士でコラボして、新しい芸術文化を進めています。今後のさらなる発展に向けて、より多くのご協力をお願いしております。

加盟団体の所属に関わらず、「個人賛助会員」として、芸術文化を応援して頂けましたら嬉しく思います。

※御協力頂けます方は、下記の事務局まで、御連絡を頂けましたら幸いです。

編集・発行 市川市芸術文化団体協議会

事務局 〒272-0021 市川市八幡 4-9-17 酒井玄枝方 TEL047-334-7832 HP <http://www.geibun.org>

### 芸文協 賛助会員氏名

2020年～2021年10月現在

協賛企業: 山崎製パン株式会社・塚本建材株式会社(順不同)

内田一孝 本池美佐子 荒木洋子 能村研三 酒井玄枝

成田久江 町山公孝 伊東美佐子

渡邊みどり 田草川信慈 田所寿志 田所みや子 田中崇史

高畑雅哉 久島鮎子 牧恵子 松本定子 佐藤多恵子 成田久江

江口愛理 佐藤和子

(敬称略)



# 天空の文化祭 2022

令和4年2月11日(金)～13日(日)

アイリンクタワーウェスト 45階展望室

地上45階での、芸文協加盟団体の、展示や公演と  
市川市が誇る眺望をお楽しみ下さい!!



市川市芸術文化団体協議会加盟団体による展示と公演

## 令和3年度 芸文協加盟団体による文化活動 (9月文化集会・2月天空の文化祭は共通の掲載を省略)

団体名	行事名	開催日	会場	問い合わせ
市川市花道協会	第76回市川市芸術祭 いけばな展	コロナ禍により中止		渡邊みどり 047-326-5118
	各流派の花展	〃		
市川交響楽団協会	第419回 ファミリー交響楽	令和3年12月5日	行徳文化ホール	篠田要衛 047-339-3554
	第411回 市吹 定期演奏会	令和4年2月12日	〃	
市川民話の会	民話を楽しもう	令和3年5月～4年3月	いきいきセンター宮久保	湯浅止子 047-337-7175
	映像による配信(録画)	令和3年6月	中央公民館	
市川市合唱連盟	市川市民合唱祭	コロナ禍により中止	行徳文化ホール	酒井玄枝 047-334-7832
	うたの広場	令和4年2月8日	全日警ホール	
市川市洋舞踊協会	第38回市川市洋舞踊公演	令和3年8月9日	行徳文化ホール	荒木洋子 047-373-1002
市川オペラ振興会	「芸術文化により知る市川市」のタペ	令和3年4月26日	山崎製パンLLCホール	木村珠美 047-325-0088
	市川市芸術文化祭参加公演 「なつかしの歌 思い出の歌」	令和3年5月29.30日	全日警ホール	
市川市手工芸連盟	第30回市川市手工芸公募展	コロナ禍により中止		牛尼節子 047-373-5293
	秋の作品展とチャリティー	12月8日～12日	全日警ホール	
市川市俳句協会	市民俳句大会	令和3年11月23日	全日警ホール	町山公孝 090-6496-2193
	新春展	令和4年1月	中央図書館ロビー	
市川市芸能協会	第6回八幡芸能祭	令和3年10月24日	全日警ホール	稲葉健二 047-333-1783
輪の輪工芸美術会	第35回公募・輪の輪展	令和3年11月30日～12月5日	船橋市民ギャラリー	野竹内 康子 047-317-3242
	ユニバーサルチャリティー 輪の輪会員小品展	未定	全日警ホール(予定)	
芳香社	第46回日本自由画壇展	令和3年6月9日～21日	国立新美術館	池田蘭径 047-392-1009
	秋季展	令和3年10月16日～22日	東京都美術館	
装道礼法きもの学院 千葉県認可連盟 市川支部	令和2年度合同修了式&きもの、十二単の着装	令和3年4月18日	スプリングス幕張ホテル	工藤エミ子 047-370-6436
	装いコンテスト関東大会	令和3年11月21日	横浜関内ホール	
宗左近・蕊の会	芸術文化集会	令和3年9月14日～19日	全日警ホール	伊東美佐子 090-1732-4653
	天空の文化祭	令和4年2月11日～13日	アイリンクタワーウェスト	
和心会・紫翠庵	茶事	5月～10月・11月～4月	和心会道場	佐藤和子 047-338-6678
	稽古初～納会	1月～12月	公民館	
人形劇大好き! 市川の会	ふわふわ 人形劇公演	毎月	昭和学院子育て支援センター	加形ふみ子 047-702-3146
	第2回いちかわおはなしフェスティバル	令和3年7月11日(日)	全日警ホール	